

苗族民話集 (1974年) (東洋文庫 中国の口承文芸 2)



出版: 平凡社  
著者: 村松 一弥  
ページ: 429  
PDF

村松一弥 (編訳)

昭和46年(1971年)4月25日初版発行 中央公論社

### 「原著序言」より

ミャオ族は、古来、文字を持っていなかったもので、制度、歴史から、英雄談や著名人の逸事にいたるまで、すべて、民間の口頭伝承によって語り伝えてきた。

老人たちは、宴会、祖先の祭り、正月、市日などには、ひと所に集まって、古事すなわち歴史の知識を問い質し合い、古代から伝承してきた歌の歌合戦をする。歌い負けたら、学問がないといわれ面目を失う。

若者たちは、市日や、山のぼり、娘組の集まりや、歌垣の日に、恋歌と、恋の物語を展開する叙事歌を歌いかわす。上手に歌えたものは、みんなから注目され人気者となる。

主要な古歌と叙事歌とは、同じ筋を持つ散文体の話としても広く流布している。それが、ミャオ族民衆が好んで語り伝えてきた民話である。

<https://rapidgator.net/file/86ed8196f67744ae3a4d6b9d54896a26/zUzxb7xo8.pdf.rar.html>